

議会・行政改革特別委員会記録

日 時 令和4年5月12日（木曜日）13時30分～15時10分

場 所 議員控室

出席者 金木委員長、逢坂副委員長、磯野委員、平山委員、阿部委員、工藤委員、船本委員、小寺委員、舟見委員、村田委員、森委員

事務局 豊島事務局長、嶋元係長

金木委員長

それでは、皆さん、ご苦労さまです。ただいまから議会・行政改革特別委員会を始めてまいります。

今日の案件は、去年11月にも開催しました議員定数についてということなのですが、案件としては議員定数の在り方に係る町民意見聴取事業についてということで進めてまいります。

11月のときにも皆さん大体一致されたことで、町民のアンケートを取っていこうということで、その予算化も無事通りまして、早速ですが、そろそろ準備を進めていかなければ、それなりの日程もかかる作業になりますので、今日の会議でそのアンケート項目の内容程度は一致点を見いだしていきたいなということで進めてまいりたいと思います。

それで、まず何もない中で議論、討議というのもちよっと難しいかと思ひまして、議会事務局のほうにたたき台となるような資料をぜひ作ってほしいということでお願いをしました。資料1、2、3とお手元にあると思いますが、簡単に事務局長のほうからその内容説明をお願いいたします。

1 議員定数の在り方に係る町民意見聴取事業について

豊島事務局長 13:31～13:42

それでは、私のほうから資料1、資料2、資料3につきまして、それぞれご説明をさせていただきますと思います。

まず、資料1のほうにつきましては、ただいま金木委員長のほうからもご説明がありましたように、昨年11月に特別委員会を開催した折に議員定数の在り方について町民の皆様から意見を聴取するということが協議、決定をされております。その意見聴取するに当たりまして、聴取するときのアンケートを実施する際の設定項目について、議員定数の在り方ということでの意見聴取でありますので、その項目に絞った中で必要

と思われるものを資料1のほうに掲載してございます。

まず、資料1のほうの一番上段にあります議員定数の在り方に係る町民意見聴取時の必須とする設問（案）というところでありまして、1から5まで設問項目を想定しております。まず、1は性別ということで、①が男性、②が女性、③にその他または回答しないという項目を設けてございます。現在の社会情勢上、この③、その他もしくは回答しないという項目を設けることが多いアンケートが散見されております。それで、今回につきましては、その他もしくは回答しないというどちらかのことを決定していただいた上で、1から③の項目ということでこの性別という設問を設ければどうかなということで1番に記載させていただいております。

2番目が年代もしくは年齢ということで、①から⑧までということで、20歳未満、20代、30代、40代という形でどんどん上に行きまして、最後は80代以上ということであります。こちらの年齢、年代につきましては、昨年の委員会の中で意見聴取するということでお話をさせていただいていたところ、意見聴取するための年齢要件等については特段お話、協議、決定ということではなかったかと思いますが、意見聴取するに当たって、ある程度の基準がなければならぬだろうということで、事務局のほうとしては現在選挙権を有する年齢が18歳までに引き下げられていることに鑑みまして、満18歳以上で羽幌町に住民登録がある方ということ念頭に置いた形で事業のほうを検討させていただいていたということもございまして、①の20歳未満という項目をあえて設けているという状況でございます。

続きまして、3についてです。3、現在の議員定数（11人）について、どう思うかという設問を設けてはどうかということで設けさせていただいているものです。①については、〇〇人に増やす、②が現在の11人でよい、③が〇〇人に減らす、④が分からない、4つ目につきましては設問の4ということで、問3の理由について自由表記で記載していただけないかなど。理由を記載していただきたいということで、4番目の設問を設けてございます。

5番目が本町議会に対しての意見等があれば、自由記述で記載していただきたいということで、必須として設問を設けたほうがいいのかということで想定しているのが1から5の設問と内容になっております。

続いて、中段ですが、必要があれば追加する設問ということで案を載せてございます。こちらにつきましては、6と7ということで2つの項目、6が住まいの地区ということで、市街地区ということで、こちらについては中央、築別等を含む地域ということであります。②が天売地区、③が焼尻地区という形の離島もしくは離島ではないという地域を明記していただければなというところで、6の設問の内容にさせていただいております。

す。

7番目が職業ということで、①が学生、②が自営業、③が会社員、④が公務員、⑤が無職、⑥がその他という形で設けているものです。これは、あくまでも必要があれば追加するという項目でよいのではないかというふうに考えているものでございます。

最後、一番下段になりますが、その他議会活動の参考とするための設問ということで、8番目に前回の町議会議員選挙、平成31年4月に実施した選挙に投票しましたかというような設問を設けて、①、投票した、②が投票していない、9番目のものとして問8で投票していない理由ということで、①が投票したい議員がない、②が町議会選挙に関心がない、③が旅行等で不在、④がその他ということで、その他の理由があればこちらのほうに自由に記載していただければと。

10番目として、町議会または町議会議員活動に興味がありますかという設問の内容にさせていただきます。①が興味ある、②が興味ない、③がその他ということでなって、繰り返しになりますが、事務局としては1から5は必ず設けたほうがいいたるところでの必須の項目という形で委員長と相談させていただいた結果、必須とする設問でいいのではないかと。中段以降、必要があれば、あとは参考とするための設問ということですので、こちらをたたき台に設問の中身についてご協議していただければなというところでございます。

続きまして、資料のナンバー2と資料のナンバー3のほうにつきましてご説明を続けさせていただきます。こちらの資料ナンバー2と資料ナンバー3につきましては、町民の皆様の方に意見を聴取する際に参考となる資料という形で回答書、回答していただける用紙と一緒に同封してお配りをしたほうがいいたるところで考えている資料のものになります。

資料ナンバー2につきましては、留萌管内の町村議会議員の定数の一覧ということで、こちらにつきましては基準日が令和3年7月の1日現在ということで、道議長のほうで毎年取りまとめています統計があります。これが町村議会実態調査という統計がありますが、そちらのほうで集計したものから引用させていただいております。その一覧表の中身であります、管内の町村ということですので、南の町のほうから増毛町、そして7番目が一番管内北に当たります天塩町ということで、南から順番に町村名を掲載させていただいております。①が基準日現在の人口、面積、3番目が議員定数、④といたしまして議員1人当たりの人口、⑤として議員1人当たりの面積ということで、それぞれ計算をして、もしくは転記をさせていただきながら作っているものでございます。こちらにつきましては、議員1人当たりの人口及び面積については整数とするために小数点以下第1位で四捨五入をした数値を便宜上、記載させていただいているというものにな

ってございます。

次に、資料ナンバー3ということで、こちらにつきましては同じ基準日で作成しておりますが、こちらは北海道内の類似団体の議員定数の一覧という形になっております。項目につきましては、資料ナンバー2と同様の中身としてございます。ただ、それ以外に追加しているということで、類似団体のうち議員定数の最多、最少並びに議員1人当たりの人口の最多、最少、それから議員1人当たりの面積の最多、最少という項目も分かるようにそれぞれの項目を追加させていただいております。また、類似団体につきましては、基準日現在における住民基本台帳の人口が5,000人以上9,999人以下というところで北海道町村会のほうが実施主体となって行っております実態調査のほうでは集計されておりますので、それに倣った形で集計をさせていただいております。こちらのほうにつきましては、道内の類似団体ということで、羽幌町を含めまして35団体の類似団体という形になってございます。

一応、雑駁ですが、このような形でございます。

金木委員長

ということで、まずアンケートの内容と申しますか、項目についてなのですが、あれもこれもとあまり多くしないで、あまり膨大なものになると答えるほうも嫌気が差して、もう出すのをやめたなんていう部分にならないように、最低このぐらいのものは出していったらいいのではないかとこのところで準備してきました。この項目について何かありましたら、ご意見をお願いしたいと思っております。

— 主な協議内容等（質疑） — 13:43～15:10

阿部委員 設問の項目については、ある程度いいのかなとも思いますけれども、今回ある程度調査するに至った経緯であるとか、例えばこの11人という議員定数がいつから続いているものなのかとか、平成23年（前回の資料に書いてある。の声）たしか23年だったか。そういったのも、スペース的な問題も当然あるとは思うのですが、そういったのも載せたりだとか、過去例えば議員定数を議論、最近ではなくても過去どういった経緯で議員定数を議論してきて、そういった人数になっていったというのでも載せられるスペースがあったら、やはり載せておかないと、いきなり何で今回このアンケートをするのかなというのもあるので、ぜひ載せてもらえれば載せてもらいたいなと思っております。

金木委員長 当然そうだと思うので、これに最初にかがみ文というのか、前書き文みたいなのが当然ついて、このたび議会ではこういう定数を調整するに当たり、町民皆さんのアンケートの結果を参考にさせていただきたいというような文面も当然必要だろうと思っていますし、それに加えてこれまでの調査なり検討をしてきた経緯だとか、現在の11名体制になった、何年ぐらい続いているのかとか、そういう点も十分含めていけることは可能かなと思います。

阿部委員 設問以外でいいですか。資料2のほうでいきますと、留萌管内の町村議会の議員定数の一覧ということで、人口、面積、議員定数、議員1人当たりの人口、1人当たりの面積と出ていますけれども、羽幌は町議会です。管内の町村議会をベースにということかもしれないですけども、留萌管内でいくとやっぱり留萌市議会が今（留萌市。の声）留萌市です。留萌市でいくと人口が1万9,600人、議員が14人、議員1人当たりの人口が1,400人、羽幌よりも全然人口は多いけれども、議員1人当たりがカバーしている数も当然多くなってきている。そういった町村だけではなくて管内、留萌市の部分も載せられたら載せたほうが、その辺がどうなのかはあれですけども、そういうのもできるだけ参考になる部分、資料として載せてもいいのかなとも思うので。

金木委員長 留萌市も含めて、管内全自治体のということですね。

平山委員 アンケートのこの資料というか、これは全戸に配布、それとも選挙の…

金木委員長 一応こっちで考えたのは、予算的な面からも当然いわゆる無作為抽出というのですか、500名を対象にしようということで今話は進めているというか、一応無作為抽出なので、個人情報とかも実際指定の作業になるので、本庁側のそういう情報管理の部署にも一応話をしてオーケーをいただいているという考えで今進めています。

- 平山委員 というと、選挙名簿の 500 名となると、何分の 1 ぐらいなのでしたっけ。何割ぐらいなのですか。(10 分の 1 ぐらいかな。の声)
- 金木委員長 5,000 人の 1 割ぐらいですかね。
- 平山委員 それで 500 名。私、それならちょっと少ないかなと。
- 森 委員 むちゃくちゃ多いと思う。統計のあれからすると、50 人とかでも成り立つぐらいのあれだと。あまり少ないから。
- 金木委員長 全体に諮って決めたわけではないけれども、前回の 11 月の委員会の中でも 500 人程度でどうなのかなという意見が何人かから出ていたかなと思うのですけれども、有権者数のほぼ 1 割になれば、500 人でまあまあ。
- 村田委員 予算的にもそういう数字を基に(そうなのです。の声)返信用封筒とかも予算要求しているのだっけ。
- 磯野委員 その 500 人ですけれども、例えば町民にしてみると、突然隣の人に来たけれども、私に来ないとかというのが出たときに、何らかのそういう無作為抽出ですよというのは、知らしめるあれはあるの。
- 金木委員長 文面にも書けるだろうし、前もってホームページか何かでも。
- 豊島事務局長 すみません。当然、先ほども金木委員長のほうから阿部委員の意見に対して説明しているように、この資料以外に必ずこういった趣旨で、こういうことを目的にお願いするということでの前文というのですか、説明文を必ず添付しますので、その中で当然ながら基準日全体で無作為に抽出した 500 名に対してアンケートをお願いしていくということで明記しますので、それがない、この資料だけ送ってやってくれということには必ずしもなりませんので。
- 磯野委員 僕がちょっと懸念したのは、要するにそれをもたらした人は分かるのです、無作為に決めたそうですよと。だけれども、あっち来たのに俺のところ、

同じ役場から来た郵便、俺のところ来ないのかなという、そういう話が出ないのかなと、ちょっと懸念したのですよね。しかも、結構多い。例えばこれが本当にごく限られた人というのだったらあれだけども、結構町内のあちこち来ているのにと話になると、どうかなという、ちょっとそういう懸念があった。それで文句を言う人はいない……

金木委員長 私私見ですけども、ホームページを使って全町民が見るわけではないけれども、ホームページでこういう趣旨で、こういうアンケートを始めましたというような文書も載つけることもできるだろうし、新聞記事に載せてもらえれば、前もってのこれから始まるよというような新聞記事にしてもらえれば、また広まるかなとは思いますがけれども。

磯野委員 すみません。確認だったのですけれども、回収はどのような方法でしたっけ、回収方法。

豊島事務局長 まず、アンケートに係るお願いとアンケートに対する回答文書を一応今の予定としては大封筒に入れて、その大封筒の中に返信用の封筒も入れてお願いをしていこうと思っております。返信用封筒につきましては、アンケートに協力いただける方に料金等の負担がかからないような方法ということで、受取人払いという制度を活用して、こちらのほうに到着した分の通数分だけお支払いをするというような方法がありますので、それを活用してお願いをしていきたいなというふうに考えておりますし、それに見合った、あくまでも積算でありますけれども、積算に基づいた予算について、町側のほうに要求をして、3月の議会のほうで議決をしていただいているというような状況にあります。

金木委員長 回答率は、どのぐらいで見ていたのですしたっけ。返事、500 通出して、半分ぐらいですか。全部は戻ってこないだろうけれども、大体（何事か呼ぶ者あり）経費が一番かかるのは、戻ってくる……暫時休憩します。

(休憩 13:52～13:53)

金木委員長 休憩前に引き続き会議に戻します。
先ほどの返信の見積もりについて、ちょっとお願いします。

豊島事務局長 では、私のほうからお答えしたいと思います。まず、返信を見込んでいる数でありますけれども、500に対して200の回答を求める、200通返ってくればいかなということに予定して予算化させていただいております。こちらにつきましては、一般的な統計調査をするときに標準となる指数があります。そちらを活用させていただきながら計算して、それを若干上回るような数値ということで200通という形にしております。
(何事か呼ぶ者あり) そうですね。協力いただける、いただけないは、やはりもらった方の判断になりますし、あくまでも意見を聞くアンケートということですので、強制という形ではないです。あくまでも予算上で見込み、これだけ返ってくればいかなという希望的な観測も含めて数値化しているものでございます。

あと、休憩中に議長のほうからお話のあった同一世帯に対して複数のアンケート調査が行かないような配慮というところでもありますけれども、こちらにつきましても事務局もそういったことがちょっと懸念されるという、なったら困るなということも想定しておりましたので、個人情報の取扱いについて、個人情報の抽出する範囲というところもあるのですが、そちらの中に世帯主名も個人情報として抽出していただきまして、提供の際には個人名と世帯主名が明記されてくるようなデータをいただくことで審議会のほうも了解を得ております。なので、仮に同一世帯から複数に抽出されても世帯主名を見て同じ世帯の中に複数人対象者、無作為に抽出した方がいた場合は、そこはちょっと外させて、事務局のほうで無作為と言いながらも、そこはちょっと人為的な配慮をして違う世帯に回るような配慮をしていきたいというふうには考えているところでございます。

森委員 何もわざわざ休憩中に言う必要はなかった。実は、そういうことを言うと、今度またプライバシーの問題とか、いろんな派生することがひょっとしたらあるので、いきなりここで話して議事録に残して、またそれを公表してどうなのだというのがあったので、あえて言ったのだが、問題ないということだったと思います。ほかのことに対して、個人的には先

のほうに言いたいと思うのですけれども、参考意見として留萌は 1,000 だったのです。人口割にすると、羽幌が 500 というのは決して少なくなないということなのですけれども、ちょうどタイミング的に多分議員定数が盛り上がっていたということもあるかもしれませんけれども、留萌は 37.7%、375 人返ってきたということがホームページに載っています。だから、やっぱりあの当時、相当留萌は何回もやり直しかけたりなんざりしてアンケートをやったということで多かったかもしれないなとは思いますが、やっぱり PR 次第ということではないかなと。

磯野委員 最初の話、設問の部分です。6 番から 10 番までが必要があれば追加するということなのですけれども、私は 10 番まであっていいと思います。それは、皆さんも同じような（何番、10 番。の声）6 番から 10 番までに必要があれば追加する設問とあるのですけれども、要するに 10 番まで入れるという、皆さんもいいのですよね。私は、10 番まで入れるという。

森委員 全部入れなければ……

金木委員長 どうでしょう。いいのではないかという意見もありましたけれども、そういった意見も含めて、ほかの皆さんはどうですか。

村田委員 先ほど委員長のほうから、あまりたくさん設問があると嫌になってということもあるのかもしれないのですが、ちょっと自分としてはこの議員定数をどうしますかという中に、やっぱり関連する部分でいくと議員報酬との関連も当然あるでしょうし、あと今各町村で悩んでいる成り手不足に関してもやっぱりこの部分に関しては関連があるので、ちょっとそれを考慮した設問があってもいいのかなという思いがちょっとあったものですから、意見として言わせていただきたいと思います。

磯野委員 今の意見については、いいと思うのですけれども、もし議員報酬云々というのだったら、やっぱりその資料の中に各町村の議員報酬も入れてやらないと、比較のしようがないのかなという気がします。

森委員 まずいいのではないのか。

村田委員 どうして今その報酬を言ったかというのと、町の町民の中に報酬を上げて少数精鋭にしてくれよという声が結構やっぱりポロポロと聞こえてくるのです。何でと言ったら、羽幌町全体の議会としての議会費の報酬の金額が3,000万なら3,000万という中で、議員定数を減らして若手でも議員に上がってこれるような体制にするだとか、こんなにたくさん要らないと。もっと報酬を上げてやって、もっと働いてもらえと。いろんな考えの中で少数精鋭という言葉が私の耳にも入ってくるものだから、あまり自分としてはこの報酬を入れたくない思いがあるのだけれども、そういうことも含めて検討材料かなと思ったので。自分もできれば、ここはあまり触りたくないところは触りたくないのですけれども、町の人はずっと結構この話は言うのだよね。農家の人はずっと言わないのだ。町で言うのだよ。だから、言いつらいのだ、多分。

金木委員長 そこもちょっと私と事務局長とも考えたのですが、結局3番、4番の設問の中で、例えば10人でいいと思った人は10人に減らすと。その理由としては、報酬を上げて少ない人数でやるべきだみたいに書こうと思ったら書けるわけです。その逆も書けるのです。もっと報酬を減らして人数は変えないとか、その辺はその答える人の書きようによっては十分その点についての意見は書けるのかなという気も私はしていたのですが、そういったことも含めて皆さんどうですか。

阿部委員 今、村田委員が言った部分というのは、確かに議会議員定数を考える上ではやはり必要になってくると思うので、できるだけ設問に入れたほうがいいと思いますし、これA4判で裏表というような感じで作るのですか、アンケート用紙としては。可能な限り、そういったものは載せられるなら載せていただきたいなどは思っております。

磯野委員 先ほど私が言ったのは、皆さんが入れるのだったらという条件で、だったらほかの町村もという話です。入れるか入れないかということに対しては、私は委員長の意見のほうが、4番の中に入れるということではないかなと。

森 委員

具体的なことではなく、このつくりは一番心配したところなのです。要するに記入式がメインになって、あとはただ単に増やすということなのですけれども、アンケートのつくり方として誘導尋問的なものは避けるべきだというような基本的なものはあると思うのです。これは、旭川市議会が市議会議員に対するアンケートなので、一般町民とは違うのですけれども、そういう観点もきつとあるのだと思うのは、議員定数についてとやりますよね。適当である、多い、少ない、その他をまず書かせて、多い、少ない人は望ましい意見は何人ですかという、わざわざ2つつくっているのです。だんだんハードルを上げていくと、例えば具体的に最初から数を決めないといけないのかみたいようなことを避けているのだと思います。

それと、あと議員報酬についてももちろん具体的にはやっぱり出してやるということです。

それと、これ大事だと思って見たのは、阿部さんの意見にも関わることかもしれませんが、議決権以外に議員の責務としてあなたがより重要と考えるものは何ですかという問いをつくっているのです。ここだと、もう自分のほうで何か考えて議会に対する意見等ということで、新たに文章を作って書かなければいけないのです。そうすると、やっぱり一般の人にはハードルが高くて、書かない、出さないにつながるのかなという気がして、この部分については、例えば1から7、8にその他なのですけれども、執行部のチェック機能を高めることだとか、2番目は政策提言しようとか、それとか市民の意見を吸収し、市政に反映させるとか、複数回答がオーケーなのです。そういうふうには、選ぶのを多くしてやったほうが出す人には自分の近い意見を選べるようなことのほうが関心が高くて、やっぱり羽幌の中でほとんど、あと理由とか何とかを書けよというふうになると、書くのはやっぱり難しいとかということになるので、そういうような形で具体的に選ばせるという項目の手法が必要かなと。例えば議員報酬も今は何ぼですよ。では、多いですか、少ないですかみたいな、何万がいいですかとか、それに対してほかに定数とかがあれば書いてくださいとか、割とそういう選ばせる、具体的に選ばせる、丸だけつければいいよということで聞きたいことが成り立つという手法のほうが回答率だとか、精度に関してはいいかなと。やっぱり書くというのは、書く人は嫌になるぐらい書くけれども、書かない人は

本当に書かないで、書かなければならないと思ったら出さないとか、そういうのもちょっと工夫としてあっていいのではないかなという気がするのです。

大事なのは、やっぱり議会のための設問のところで投票した、投票していないとか、そういうのは投票率で出ているから、あまり意味ないかなという。それよりも、さっき私が言った議会に対して求めるものは何ですかみたいな機会を、定数だけではなくて具体的な例も含めてやるような項目を付け加えたらどうかなという気がしますよね。

工藤委員 今、議長が言った意見は、とても大事だと思います。僕もアンケートに答えたこともあるけれども、やっぱり自分で何かもちろん書くというふうになると、いいわ、出さないわという気持ちには僕はなりませんから、今、議長が言ったように何か選んでやれるアンケートのほうが良いと思いますけれども。

金木委員長 分かりました。森委員のほうから具体的に選択できるような項目の形に変えたアンケートにしたほうが良いという意見で、何人か賛同されている方もいらっしゃるけれども、どうですかね。そういうほうが良いですか。取りあえず、また発言される……

船本委員 議長も今おっしゃっていましたがけれども、私はそのほうが町民は真剣に見られるのではないかなと。真剣と言ったらちょっとおかしいけれども、町民が簡単に回答できるような形のほうが私も良いと思います。ただ、あとそのほかにこの追加の関係で職業関係、あまり数多いのは、さっきも誰か言っていましたけれども、なかなか多過ぎるというのはあれなのだけれども、職業関係でどういう方がこういうことを言っているのかなということがちょっと見たいなと思うので、ちょっとあまり多くなれば、これは駄目だとか、ちょっとあれですけども、できるのであれば職業もちょっとどういう方がどういう答えを出しているのかなということが見たいなと思うのです。追加できるかできないか、それはそちらにお任せしますけれども、あまり多くなったら困りますので、そんな考え方の状態です。

小寺委員 すみません。前回の話、かぶるかちょっと分からないのですけれども、日程的にはデッドラインというか、それがあつたら、修正をかけたもう一回とかは全然可能だと思つていて、例えば議会広報が次に出るのは7月の末頃になると思つますので、それに合わせて作業ができるのか。それまでにアンケートを修正して、そうすると議会広報のページもちょっと使わせてもらつて、より具体的な意図ですとか、抽出方法の件ですとか、そういうアンケート用紙を受け取らない人にも全戸に行くという作業もできるので、その辺スケジュール関係、議会広報に間に合うように作業が、うちの作業もどういふ作業があるのかちょっと分からないのですけれども、アンケートの修正も含めて時間的に大丈夫だといふところでお伺いしたいのですけれども、どうなのでしょう。

金木委員長 これからの日程的な流れといふのですか、それについても大まかな話はちょっと聞いてはいたのですけれども、できれば最初に言つたとおり、本当は今日は項目を決めて、早速その段取りに入りたいと思つていたのですが、皆さんがこういう形でなくて、そういう選ぶような形にすべきだといふことになれば、またちょっと修正は当然必要かなと思つますし、その後の流れについては、そのぐらいのずれは大丈夫ですかね。結局項目を決めて印刷して袋に詰めるのと、あと送る人の無作為抽出作業をして発送をして、答えたものを回収して、それを集計して、それから集計結果に基づいてまた我々は何回か話し合うだろうと思つるので、そういう点を考えると、ぎりぎり12月議会、もし変えろとすれば12月議会での審議といふことになるだろうし、それまで1回、2回の会議でまとまるかどうか分かりませんが、当然11月、12月頃の審議になるだろうし、といふことは9月いっぱいにはアンケート結果も出ていなければいけないなど。逆算してといふことで、もうちょっと日程的に多少まだ余裕ありますか。

小寺委員 例えばできる作業を前倒して、今日は数と無作為のやつですとか、あと世帯の関係のことは、もうそれ以降ねと。ただ、それは事務作業としてちょっと動いていただいて、アンケートについてはちょっと直しを入れて、6月定例会前になるのかといふ作業で、あと袋詰めするような作業的に、なるべく7月に間に合わせるように委員会を開催すればいいの

かなというふうには思うのですけれども、せつかく議会広報を出すときに、そういうふうに触れたほうがいいかなと。7月末だから、8月いっぱい、何日期間が空いて回収して締切りとかと考えて、その後の集計ももし200来てもみんなでやらなければいけないとか、その作業分担もあるので、だから今日決めることは決めて、アンケートの中身についてはもう一回修正したものを、今日出た意見をちょっとまとめていただいて、あと頭のリード文をちょっともう少し、本当に出すような形にさせていただいて、それが微調整ですぐ印刷できるような動きというのはどうなのでしょう。全部止めるのではなくて、進めるところは1つずつしたほうが事務作業は楽ちんかなというふうに思います。

金木委員長 皆さんもこういう意見を持っているのに、突っ走っていくわけにもいきませんし、できるだけ皆さん全体の納得いくような方向で進めていきたいと思いますので、6月定例会までまだもうちょっと日程もありますし、事務局の仕事としては分かりませんが、6月定例会までにもう一回集まって、きちんとした形でいけたらいいかなと思うのですが、どうですか。

村田委員 今、小寺委員が言ったように、7月に出す議会だよりのときに議会としてこういうアンケートを無作為でやりますという、中身はどこまで、そんな詳しく載せなくても、こういうことでやりますということはどうたっておいて、それと同時に発送できるぐらいの進め方であれば間に合うのかなと思うので、やっぱり先ほど言ったお願いの部分、最初のお願いの部分だとか、今出ている設問の在り方なんかも今日ここである程度このような形がいいのではないというものをつくった中で、もう一回申し訳ないですけれども、事務局にそれを含めた形でもう一回つくってもらってやっていくぐらいのほうがいいのかなと。ちょっといろんな中でそう思ったので、それで間に合うのではないかなとは思いますが。

小寺委員 なので、今日の段階である程度皆さんに意見を出してもらって、また次のときにまた追加があるかもしれないけれども、なるべく今のうちに意見は出してもらって、それを踏まえてやらないと、いや、本当はこれ入れたかったのだけれども、前に言うの忘れたとかということがないように、なるべく今日出たものを含めた中身にしてちょっとずつ進まないで、

また消すというふうになった気がするので、なるべく今日皆さん意見を少しずつ言って、それを反映したものでどんどん進めればいかなというふうに思うのですけれども、これでよければいいし、でもすごくたくさん意見が出たので、それを踏まえて、それをなるべく入れて、その中でまた消すとか、順番を変えるとか、そういう作業をちょっとしたらいいかなというふうにも思うのですけれども。あとは、ある程度は委員長、副委員長がもしいらっしゃるのであれば、ちょっとなるべく原本に近い形でつける資料も裏表で、今日の資料2、資料3の裏表の資料とこれですというぐらいにあれば、分からないですけれども、アンケートの回答用紙とか、その辺も含めて何かちょっと、なるべく送る原板を次のときに出してもらって、その中で再度やっぱりこれをやりましょうかねというふうにしたほうが、先ほど資料の話もどの程度載せるとかというのもいいのではないのでしょうか。と僕は思います。

金木委員長 それでは、いいですかね。そうしたら、次回、いつか日程はまだ分かりませんが、発送する段階のようなものを次回まで案として作成をしたものでもう一回協議していこうということなのですから、その形としては森委員のほうから具体的には述べられたと思いますけれども、こういう1、2、3のみたいのではなくて、もっと選択をして丸をつけるような形のアンケート形式にして、あまり文面で理由を書くようなものはなるべく……

森委員 全部書く欄、必ずそれはつくらなければならない。だけれども、書かなくてもある程度聞きたいことを答えられるような工夫が必要ではないのかなという……

金木委員長 そういう形のものに変えようかという。では事務局長からお願いします。

豊島事務局長 今回、この資料1、2、3を提案、委員長のほうと相談をさせていただきながら事務局のほうで作成して、委員各位のほうにお示ししているのですが、それについては何もないうちで議論が進まないだろうというところもありましたので、これが全てということではなくて、あくまでもたたき台というニュアンスで提示をさせていただいております。なので、

いろいろご意見等、今回の委員会の中で出していただいて、先ほど森委員のほうからお話があったように設問に対して答える方法として、その答える内容に丸をつけるという方法を用いることを事務局としても想定は実はしております。ただ、今回はあくまでもどういった項目を設問として設けたらいいのでしょうかというところのたたき台ということで、こういうような形式で提示をさせていただいているということですので、これがそのまま町民のほうに意見を求める回答用紙として、そのまま直ダイレクトに行くということではないということを一応ご理解いただきたいなというところでもあります。なので、いろいろ意見を出していただいたほうが、事務局が主導してやる事業ではございませんので、議員皆様方のほうでこういうことを聞きたい、ああいうことを聞きたいというところでもありますので、その辺をご意見をいただければと思うのですが、ただ1点、今回事業として前回、昨年11月に委員会の中で協議したように議員の定数の在り方について、町民の意見を広く聞くべきだということで協議まともっておりますので、それをメインとしてどうした中身で設問を設けて、どういったことを聞いていくかということの主眼に置いていただきながらご協議をいただいた上で事務局のほうにご指示をいただければ、意に沿った形になるか、ならないかというのはお約束できませんが、ある程度それらの意見を網羅した形で、小寺委員のほうからもありましたように次回の委員会の開催時期がいつになるか分かりませんけれども、それらを網羅したような形で、ある程度町民の皆様の方のほうにお願いできるような形態に近づけるようなものを作成させていただいた上でお示しをしていきたいなというところでは思っておりますので、意見をいただければと思います。

金木委員長

日程的なことは、ちょっと触れるのもいいのかな。今後、これから今年7月、8月にかけては管内議員研修会が羽幌であったり、その準備とかもありますかね。とか、あと内灘からいつ頃来るか分かりませんが、いろいろ混んでくるかなという状況があるのですが、かといってアンケートもないがしろにはできませんので、ずるずる延びないようにてきばきと進めていかなければいけないというのは1つあるのです。でも、最後は最終的に12月の議会で決着をつけるという考えであれば、まだ何とかなるかなとは思いますが、今日の案件について、ほかに何か具体的に、

ここをもっとこうすべきだみたいなのがあれば、意見を出していただければと思いますが、さっき資料2とか3、これ必要かみたいな声もちらっと聞こえたのですが、この点はどうですか。発言していただければと思いますが。(資料1について。の声) 添付する資料、もっとこういうものが必要だとかというのがあれば。

村田委員 先ほど阿部委員から留萌市も入れたほうがいいということで、留萌市も含めた中で資料2を入れるのはいいかなと。ナンバー3は、これはなくてもいいかなと思います。

阿部委員 僕もナンバー3については、なくてもいいのかなと思っていました。村田委員のほうで議員報酬の部分ももし設問として入れるのであれば、そっちのほうも載せられる範囲で資料として載せたほうがいいのかなとは思いますが。

金木委員長 それは、管内の……

阿部委員 管内もそうですね。羽幌だけ載せてもあれなので、ほかと比較ができません。

村田委員 管内でいくと、町村でいくと羽幌が一番高いのだよね。

森委員 でも、ほかも上げているところもあるから、そんなに。極端に安いところはあるのだけれども、でも羽幌が一番高い。

村田委員 安いところで上げるよという、上げるような雰囲気はあったのだけれども。

平山委員 今その報酬のことも資料として入れたらいいのではないかという、そもそもこれは議員定数の在り方ですね。報酬、どこにあるか。反対とかではなくて、どういうふうに結びつけてしようとするのかなとちょっとふと思った。

村田委員 自分も報酬に関しては、金額のベースということは出さないで、例えば設問の中の丸をつける中に議員報酬を減らして定数も減らすとか、それから増やす、報酬を増やして定数を減らす。それから、報酬はそのまま定数だけを減らすとか、何と言ったらいいのだろうか。そういう自分たちの金額をばんと出して、それで全体、管内が高いとか、低いとか、羽幌が高いとかという、そういうことを聞きたいわけではないのだよね、さっき自分が言ったのは。その町の中の言葉として、少数精鋭で行けよという、あと若い人も担い手、成り手不足を勘案して報酬を上げて、若い人ももっと出やすくすれよという声があるから、そこら辺を何かうまく加味して設問とか回答の中にそういう欄があればいいのではないかなという思いで、報酬を管内で全部出してしまう必要はないのかなと。(金額を例示するということではない。の声) ないのですよね。

平山委員 今、村田委員が言った、そういう設問の仕方だったら私はいいと思います。そういう設問の仕方だったら。管内のほかの町村の議会議員の報酬を上げていたら、自分たちのも当然なるのだけれども、それをその定数にどういうふうに結びつけるのかなとふと思ったのね。

船本委員 今、平山さんが言ったように今は議員定数についての町民の考えを聞かせてもらうということなのだけれども、私が一町民として考えた場合に、そこにどうしても議員報酬ってどのぐらいかなと考えてしまうのです。ただ、あまりここに議員報酬をはっきりしてしまえば、またいろんなこと、議員定数と報酬と両方の質問であれば、しっかりと書いたほうがいいのではないかと。あまり触れないような、うまいと言ったらおかしいけれども、考え方はないかなと思って今考えたけれども、だけれども、やっぱり書くほうにすれば、議員報酬というのはなんぼだよというのはやっぱり一番先に頭にくるあれだと思うので、聞きたいなと思うから、そこら辺がね。

阿部委員 議員定数と議員報酬の部分でいくと、例えば議員定数では維持しようと、11人にしようと。ただ、こんな報酬、今管内の議会と比べると、やっぱり違うのだとなったら、では報酬は下げて定数は維持しようとか、その逆に定数は減らすけれども、報酬は上げてもいいのではないかという、

あくまでも参考資料として、アンケートに答える側の資料として載せてもいいのかなとは。それで、今すぐ報酬どうのこうのと、このアンケートで決めるのではなくて、あくまでも答える側の資料として載せたほうがやっぱり定数と報酬って切って切れないところもどうしても出てくるとは思うのです。だから、そこは載せてもいいのかなとは。これだけやっぱりかかるのだったら、定数は減らしたほうがいいのではないかというのもなるだろうし、その逆に。

森 委員

小寺さんがさっきから言っているのだけれども、こういう議論になったもともとは、小寺委員が早くから言っていたのだけれども、報酬はやっぱり上げて定数を減らすという声もたくさんあるのですよということ何年前か前に、この議題になる前から、その前の年の定数を決めるときかな。そういうのもあって、それをずっと引きずっているものだと当然のこととして思っていました。それは、途中で変わってもいいのだけれども、さっき村田さんが言ったように、皆さんが言ったように、やっぱりそれはリンクしているのですよね。それと、もう一つ加えるとしたら、高い、安い自分たちで堂々と決めて、その中で評価を受ければいいわけだから、むしろ出さないと分からないという話にもなってくるよね。同時に、こういう報酬、これは今回は定数の在り方についてのアンケートであって、それを参考にして定数を決めていくのだけれども、毎回報酬のことも議員が替われば、また次年度の体制の中でまた議題になると思うのです。アンケートって、そんなにいっぱい何回もできるわけではないわけだから、やっぱりそこを加えていったりする必要は、せっかくの機会だからあっていいのではないかなと。そして、場合によっては、こんな少ないのだったら、議員にはちょっと出られないけれども、これだけもらえるのかというので議員に出ようとか、そういうこともこれは今やっぱり定数と同時にリンクして、あちこちでやっぱり議会の成り手不足に対してやるというのは、やっぱり必ずリンクしていることなので、ちょっと今の言葉だけでまとめるのは大変かもしれないけれども、切って切れないのではないかと。ただ、報酬が多いか、少ないかみたいなことでは、やっぱりある程度答える側に対してのイメージが付きづらいような気がするのです。我々が決めているのだから、やっぱり出したくないという気持ちは何となく想像はするけれども、そういうものではなくて、

これはもらったものは堂々と出して意見をもらうほうがいいのではないかと。だって、そう思っているから、みんなそういう声になる。中には、それだけしかもらっていないのかという人もいる可能性はゼロではないだろうから。特に年収ベースで書いたら、みんなびっくりすると思う。月何ぼだか分からない。(何事か呼ぶ者あり) そういう今意見を拾って最終的にまとめるということで、結論をここで出すということではないですよ。

工藤委員 この一番最初の1番の資料の8、9、10の部分は、僕はなくてもいいと思っています。

森委員 合わせて言えば、10番のところで先ほど言った議題に対する求めるものがあるのだというのを具体的にばあっと書いて、そこから丸をつける。こういうことをやってもらいたいということをここに書いていったほうが、興味があるか、ないかという抽象的なあれは要らないです。

逢坂副委員長 私は、今までいろんな意見が出ていて、記述式というのは絶対いいと思うのです、アンケートを取るときには。やはり記名というのは、なかなか書かないから、記述式は絶対(選択式。の声)選択式ね。選択式が一番いいと思う。

それで、先ほど報酬の件も議長がリンクしているというのは、当然リンクしてこないアンケートを取る意味が私はないと思うのです。この定数だけ取って報酬の部分を、ただ報酬がどうですかと投げかけるという部分は受け取る側にしたら、おまえたち、そうしたら何ぼもらっているのよというふうに、要するに数字が分からないと、数字が出てこないと受け取る側は幾らもらっているのだろうなど。議員定数の資料はつけたとしても金額的な資料もつけないと、そこをアンケートで求めようとする場合ですよ。求めなければいいのですけれども、そうしたら減らして、このままの金額でいいという人もいるだろうし、いや、もうちょっと減らせと書いておいて、減らすほうに丸をつける人もいるし。でないと、資料が多少、裏表2枚か3枚になるのか分かりませんが、資料を前に事務局でいろんな資料をたくさん作ってくれたやつあるのですよね。実際に議員定数からいろんなのを書いてくれたやつの資料がもうほぼ出

来上がっているのです、これをちょっともじって入れてあげればできるわけで、そういうアンケートにしないと、せっかく取るアンケートが、いや、定数だけにしていって、それで報酬は当然そうしたらどうしますかといっても報酬って幾らもらっているのかと。私にすると、受け取った側は、いや、何ぼもらっているのだろうかと、高いのだろうなとかというふうに思うので、もしするとすれば、やはり報酬の部分もきちっと面倒でもアンケートを取ってあげたほうが、ここに入れて記述式にしてやったほうが良いと思うので、それが私はせっかくやるので。

それから、先ほど言った8番から10番は、これは当然私も要らないのかなというふうに思っています。これを求めているわけではないので、今回のアンケートについては。今回のアンケートについては、定数と先ほど議長が言った報酬、議長も言っていましたけれども、報酬の面も絡んでくると思うのです、当然。せっかくアンケートを取る時点においては。町民側もそうしたら、報酬の部分はどうするのと。定数だけ来るけれども、減らすのはいいけれども、報酬は何ぼもらっているというふうに、逆に言うとそこが一番見えないところでないかなという、町民にしたらそこが見えないと思うのです、実際に聞くところによると。幾らもらっているの、おまえたちと。たくさんもらっているのだろうと言う人が結構いるので、そこはやっぱりアンケートで今回ちょっと示してあげて、ちょっとご面倒、お手数かけると思うのだけれども、やったほうが私としてはいいのかなというふうには思います。

平山委員

今8番目から10番目のこと、工藤委員と逢坂委員から出ましたけれども、この10番は入れてもいいのかなと。形は、どういうふうにするか分からないけれども。というのは、ずっと聞いていて、議員の報酬をどうのこうのというのも出てきています。そうしたら、町民にすると、この報酬は高いか安い、どこで決めると判断するかという、その判断材料がありませんよね、そうしたら。ということは、やはりふだんのこの議員活動を見ながら、私は報酬がこれならちょっと安いのではないのか、ちょっとあまり働いていないから高過ぎるのではないかと。報酬に対しての基準、判断というか、町民が何を基準にして決めるか、私は分からないと思うのです。だから、私はこの10番は形はどうであろうと、どのように思っているのか、町民の人が。それもそうしたら聞くべきでないか

など、聞いたほうがいいのかなとちょっと思いました、今。

阿部委員 8番から10番の中で、今10番の部分で議会と議員活動に対して興味があるかということで、例えば興味関心があるかで、ある、なし、その他とか、それに対して議会に対しての意見とかを求めたりとかでもいいのかなと。やっぱり議会に関心を持ってきているか、それぞれの議員活動に対してどのように思っているかという部分は、確認できるのであれば確認したほうがいいのかなと思います。

森委員 さっき言った、なるべく記述式ではなくて選択式をお願いしたいというところで言ったつもりなのですがけれども、言葉足らずでありますけれども、より具体的に言いますと、旭川のアンケートを見ると、議会の責務としてあなたが最も重要と考えるやつを3つ選んでくださいということで8項目あるのだ。その中で、やっぱりさっき言った執行部のチェック機能を高めるとか、政策提言や政策を積極的にやるとか、市民の意見を集約し、地域をこまめに回り、行政へ住民の声を届けるとかあるのです。興味ある、なしというのは、ちょっと興味あるもないも何も生産的なものはないので、具体的なやっぱりその聞き方として全くイコールではない。あなたがより重要なものをというところで丸をつけさせたら、結構ふだん言えていないことをこうかというふうに考えていくので、これは参考にしていったほうがいいのではないかと。興味あるか、ないかと。ある、ない、あまり意味がない。しかも、そこらで何に興味ありますかと書けといっても書かないのだ。

阿部委員 例えばどういったものを求めるとか、議員としてとか、議会としてどういったものを求めていますかと。政策提言だったり、そういった住民の要望をしっかりと届けてほしいとかという今議長が言ったような項目を何個かでも載せて、そこに丸、複数回答可でも。それに対して、またさらに最後に議会に対して何か一言。

森委員 別項目だけれども、1、2と仮に……

村田委員 意見は、最後に必ずつけなければならない。

- 森 委 員 その前にもう 1 回やってしまったら、もうあと何年もできない。だから、そういうのがあると、逆に今度定数のことも意外と引っ張って……
- 平山委員 定数でも報酬でも素直に答えてくれると思うのだよね。
- 村田委員 さっき報酬、金額を出さなくてもといったところを出したほうがいいという意見もあるし、それは今ここで、できれば資料 2 の一番後ろにでも例えば管内の留萌市も含めた 1 か月の報酬額を載せたほうがいいのか、載せないほうがいいのか、これはやっぱりみんなの意見で決めないと駄目だと思うな。
- 森 委 員 1 か月は、やっぱり全然年収ではないの。ボーナスを抜かしているから、20 万なら 240 万だと思わせるようにするから。
- 船本委員 今その話が出ていたのだけれども、やっぱり町民として聞きたいとなれば、月額では駄目だと思うの。だから、あくまでも年報酬を書いて、それで高い、安いというのなら、こっちはこっちで考えればいいことなの。何を言われても、意見は両論あるから、高いと言われたから下げなければならぬという、今の質問はあくまでも定数だから、それはそれとして年報酬を書くのであればいいなと私は思います。
- 村田委員 やっぱり書いたほうがいいという人が結構いるのだ。
- 森 委 員 あれでしょう。議員報酬を上げるとか下げるとかというアンケートをするわけではないでしょう。年報酬を載せた上で、設問の中に例えば報酬を下げて定数は現状維持だとか、報酬を下げて増やしたほうがいいとか、報酬はそのままだとあれだとか、報酬を上げて定数を減らすとかというのを選ばせるための資料として載せるということでしょう。やっぱり恐らく見当もつかないし、月額はこれは明らかに後で批判を受けるから、やっぱり……
- 平山委員 そうしたら、管内の他町村も年収で。

- 森 委 員 それは、そうでしょう。
- 平山委員 それは分かるの。
- 森 委 員 同じだろう。基本的に人事院勧告があって、ボーナスはパーセンテージは基本的に同じでなかったっけ。
- 豊島局長 いや、そこそこの町村で……
- 森 委 員 聞けば分かる。
- 金木委員長 でも、他の自治体のそういう数字を羽幌町内で明らかにして……
- 森 委 員 そんなもの、絶対明らかになっている。議員報酬を隠しているなんていうことはあり得ないと思うけれども。
- 金木委員長 とはいえ、羽幌町内でそれをやって反感が……
- 平山委員 議会の中で分かっている、一般町民がでしょう。
- 工藤委員 それは、羽幌町の報酬だけでいいのではない。
- 金木委員長 その辺は、ちょっと検討、要検討かなと（何事か呼ぶ者あり）ちょっと
暫時休憩。

（休憩 14:44～14:58）

- 金木委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を進めます。
休憩前に他の自治体の報酬も明記してという話が出た中で、いろいろ話が出てきたのですが、その線についてどうなのですかね。どっちにするか、載せるのか、載せないのか、取りあえずそれははっきりさせようという声もあったのですが。

船本委員 どこかで公表されている部分であれば、私は羽幌町で載せるのは問題ないような気がする。ただ、中には、1人か何人かは、こんなのは載せないほうが良いという人もいるかも知れない。それは、両論あると思う。どこかで公表されているのであれば、出してもいいのではないかな。ただ、それは了解を取らなければならないのかというのは分からないけどと思います。

阿部委員 僕も公表、各管内の議会の報酬を載せられるのであれば、資料として載せたほうが良いのかなと。やっぱりそこが分からないと比較もできないとも思いますので、やはり載せられるのであれば載せたほうが良いのかなと。あと、各自治体の議会とかでも、市町村の議会とかでもホームページ上でもう公表、公開していると思うので、そこは問題はないのかなとは、どうせ見れるものですから。

金木委員長 大体は……

森委員 個人的には、かわいそうだからということではないけれども、総合的なものではなくて、絶対に羽幌町議会が議員としてどのぐらいもらっているのだということは必須だけれども、報酬を上げる、下げるの話ではないので、何人かでも反対する人がいるのであれば、多数決は取らないでしょう。そこはいいかなというのが全く個人的な意見。ただし、月額ベースだとか手取りだとかというのは、これはやっぱりちょっと後で批判を受けるので、年収ベースで考えざるを得ないのだろうなとは思いますがけれども。

小寺委員 他町村は別としても、羽幌町の議員とかも広報にも町長と並列して載っているわけだから、全然、それをあとは月額にするのか、年収というか、月の報酬にするのかと。もし心配であれば、他町村にちょっと問い合わせてもらって、載せるけれども、いいかぐらいな感じで。3月広報には載って（毎年載っている。の声）職員の平均……

阿部委員 月額幾らで、期末手当は4.45か月分。

平山委員 何%でね。

阿部委員 あとは自分で計算してくださいと。

小寺委員 関係ないですけども、町長のを計算したら一千七百九十何万（年収。の声）年収です。

森委員 それに400万増えれば……

小寺委員 三百八十何万プラスなので、合わせたら一千七百九十何万何千円（足して。の声）足して1,797万（それは足してでしょう。の声）足して。

森委員 そうなのだ、足せばね。足さなかったら1,300万。

小寺委員 足せば約1,800万。

森委員 1,800万。

村田委員 1,800万。

森委員 プラス400万。

村田委員 いやいや、足して。

森委員 それ今度予算、来年の予算委員会で議題に。

金木委員長 そうしたら、管内のほかの部分の税込ベースで載せるということは結局、次のあくまでも羽幌町の議員定数をアンケートで答える上で、他の自治体の議員の報酬の違いとかも見比べた中で羽幌の定数は多いね、少ないねという判断をしてもらおうというためのあれですかね。報酬を明記するという……

森 委員 だから、報酬は多いですか、少ないですかというようなことを載せる必要はないと思うのです。だから、あくまでも今言ったことであって、項目として報酬をもっと増やして定数を減らすだとか、定数に関わるような項目も入れるという条件の中の目的としてやるというふうに私は思っていますので、お願いいたします。

平山委員 高い、安いではなくてね。

森 委員 そうやって出てくる人が増えてくれれば、それはそれでいいと思うのだけれども。

村田委員 難しい話だね。

金木委員長 それで、ちょっとこれまでの話をまとめますと、では一体どういう項目を聞くアンケートにするのかということですがけれども、1番の性別は当然いいですね。2番の年代、年齢に関することもいいと。3番の定数についても多いのか、今のでいいのか、少ないのか、減らすのかという、これも選択制の項目なので、それも……

森 委員 人数は外してください。いきなりではなくて。だから、増やす、現状維持、減らす。また、細かいところで、例えば増やすにつけた方は何名がいいですかとか、議員の数だとかというふうに、いきなり自分から11とか10とか出さないで。

平山委員 書かせないようにしてということ、選ぶということ。

金木委員長 そういう形にすると。

逢坂副委員長 いいですか、3番の関係。3番の現在の議員定数についてどう思うかということについての選択肢に議会の判断に委ねるとか、任せるとかという項目はどうかなという意見（何事か呼ぶ者あり）それは、もう例えば増やすとか減らすとかではなくて、決めるのは議会で決めてくださいというふうな選択、どう思うかだから。

金木委員長 一応参考……

逢坂副委員長 参考に聞いてください。

金木委員長 分からないがあるから、分からないにしてもいいかも……

森 委員 多い、少ない、適当である、その他。

金木委員長 多い、少ない、適当である、その他、その他ね、その他。

森 委員 分からないだから。

船本委員 逢坂さんに反対するわけではないけれども、例えばそういうことであれば、現在この議会で決めて11人というのだから、そういう考えであれば現在の11人でいいですよ。(何事か呼ぶ者あり)

金木委員長 いいですか、そうしたら。(何事か呼ぶ者あり) アンケートのとおりにするために取るわけではなくて、最終的には議会で協議して判断するための参考としてアンケートを取るということであるので、その辺は納得していただけるかなと思います。

平山委員 いいの、まだ。今の話、続いているのかい。

金木委員長 一応これで終わりましたけれども。

逢坂委員 もう続いていないです。

平山委員 ちょっと確認なのですけれども、さっき報酬の部分とどういふふうにつなげるかという、報酬を増やして議員さんの定数を少なくする。それで、この3番の中にそういう項目って入れられるの。入れていけるの。ここに入らない。

森 委員 3番は、だから適当である、多い、少ない、分からないということだし

よう、まずは。その次、4番になるのか、5番になるのかは分からないけれども、ではどういう、例えば多いと少ないの理由を選んだ方はどうですかというところの選択肢に、適当であるという人はもうこれでいいのだから。

平山委員 そうしたら、この4番目のここに理由とあるでしょう、4番目の。この中にそうしたら入ってくるように……

森委員 書かせないで、選べるように（何事か呼ぶ者あり）最後は、どうしても書かせるのだよ、具体的に書きたい人は。

平山委員 そうしたら、4番目に、順番としてはね。それも入った……

森委員 それも1つなのか、2つなのかというのは検討しなければならないと思います。

平山委員 そういうことなのね。

金木委員長 そういうことで、多いという方については多い理由を選べるような、報酬が少ないからとか、何とかといういろんな理由はつけて選べるような形。

森委員 概して基本的にこれでいいと思っているのだよね。だから、そう言っている。5番なんかも意見というところで、さっき意見というふうにかかせるのではなくて、議会に対してどういう期待をしているかという聞き方なので、政策提言しろだとか、町のチェックをしろだとかという項目で選ばせるような、当然書かせる部分もあるし、その他で自由に書いてくださいというような作り方をしてほしいと思います。

金木委員長 今、森委員がおっしゃったように、そういう項目もさらに加えて考えていきたいと思います。

森 委員 要するに議員だって資料2に、ここに定数を載せるところに資料として現在の報酬は何ぼと載せるだけで、質問の間にこうやって入れていくわけではないでしょう。

金木委員長 あと、6番とか7番についてはどうかな。入れていいのではないかなという声も多かったと思いますが（いいと思います。の声）

森 委員 これ上に来るのではないの、普通。1、2、3、4辺り。

村田委員 入れれば上に入るけれども、取りあえず入れていいと思います。

金木委員長 検討します。大体大まかなところは、そんな流れのものになるかなと思いますが、そんなところで進めていきたいと思いますが、よろしいですか。（いいです。の声） そうしたら、次回はいつ頃になるかちょっと具体的には言えませんが、なるべく完成品に近いような形にして、改めて通知をしたいと思います。

あと、資料3は要らないですね。全道の市町村については要らないということでもとめようと思います。

また、この文面ができる、合わせて並行してできる作業も検討しながら、事務局と相談して進めていきたいと思います。

以上で終了してよろしいですか。では、終わります。どうもお疲れさまでした。